

【暮らしの学び舎 Salmatt 企画】家庭科で育つ子どもと私の Well-being

第6回 20260920(日) 10:00-12:00

2026 年度「暮らしの学び舎 Salmatt 企画」家庭科で育つ子どもと私の Well-being の第6回「染色で教材づくり！？体験」を9月20日(日) 10時から、Salmatt 工房で行いました。スタッフの梶山さん、中村さん、白井さんと、事前打ち合わせ、実際に工房で予備染色を行い、手順の確認なども行いました。当日はスタッフも含めて6名で活動、中村さんが進行を担当しました。第4回、第5回の振り返りとともに、鈴木から活動の趣旨、染色のメカニズムや染色手順等の説明を行った後、作品作りに入りました。講師の白井先生がたまねぎの皮を使った染色を鈴木が紅花染色を担当、染液を準備しました。用意した綿の中着やハンカチに、ビー玉と輪ゴムを使ったり、板締めをしたりして、模様を入れる準備を行い、染液に浸けている間(浸染中)は、家庭科教材としての染色の使い方やその意義、学校現場の話題に花が咲きました。今回、白井さんが使ったたまねぎの皮は、ご自身が高校の「家庭基礎」の7クラス分の調理実習で取りためたもの(+梶山さん、中村さん、鈴木を持ちより)でした。紅花は、今年サルマツ工房で収穫した花びらだけでは足りず、染料店で購入したものを使いました。鈴木は紅花の黄色色素(水溶性)を揉みだしながら、40年前の経験を思い出していました。梶山さんは、家にあった衣類(腹帯)や毛糸染めに挑戦。今回は各自の作業時間は短く、染色工程を理解したり、染め上がりに思いを馳せたりする緩やかな時間を共有することができました。

プログラムは次の通りでした。

9:00~ 9:40(40分) 会場準備、染液準備

9:40~10:00(20分) 受付

10:00~10:20(20分) 趣旨、染色のメカニズム、染色手順説明(鈴木、白井)

10:20~12:00(40分) 作品作り(前処理、染色、後処理)、披露、交流、写真撮影、アンケート入力

パワーポイントの資料ファイルをご覧ください。たまねぎの皮、紅花以外の天然染色の方法や、授業での扱い方について、関心がある方は、暮らしの学び舎 Salmatt までお問い合わせください。

白井先生は、勤務校の「家庭基礎」で天然染色も行っており、調理実習室を使って、テーブルごとに異なる染液で染めていること、浸染中は、天然染色などに関わる調べ学習をさせていることも報告してくださいました。調理で廃棄するたまねぎの皮から色素を抽出できること、ミョウバンを媒染材として、できるだけ環境に負荷をかけないようにしていること、染めることによって、衣服を再生し大切に扱うことができることなど、年間の学習指導計画や衣生活題材の中で、環境負荷の少ない生活のあり方を考えさせたり、身近な食材、衣服の扱いが、工夫によって私たちの生活を豊かにすることに気づかせたり、そこには先人の生活の工夫や現代の科学技術につながる過程があることを知ったりすることは、まさに家庭科の醍醐味であることを共有しました。

鈴木は、40年前、藍染めと紅花染めの染色性を研究テーマにしていました。この2つは天然染色の中でも媒染が不要なものです。藍染めは酸化還元処理を繰り返しながら染めます。紅花染めは紅花の花びらの黄色色素(水溶性)を揉みだすことによって、残った赤色色素で深紅に染めます。綿と絹は、同じ染液で染めても色合いが異なり、綿の方より彩度の高いピンク色になります。今回、梶山さんが持参した麻や毛も染めてみました。堅牢度は別として、いずれもそれなりに染まりました。天然染色は、気候や取り扱い状況などによって、同じ染色条件(温度、染色時間、前後処理など)でも微妙な違いが生じます。そこが面白いところです。今回、2週間前に抽出したたまねぎの皮の色素を使いました(2週間冷蔵庫保存)が、問題なく染まりました。ただ色合いが少しくすんだ感じになりました。

染色は、現在の家庭科の中で、もっと普及すればよいと考えています。環境対応を考えるための効果的な教材ですし、縫製よりも自由に創造的にものづくりができる面が多く、教師の準備は必要ですが、子どもの活動時間にあまり個人差が出ないことも魅力です。また、他教科との連携の中で、家庭科の特性をアピールしやすい面もあります。ぜひ指導計画に取り入れてみてほしいと思います。